



第42回「おかねの作文」コンクール

「お金がない」は不幸なこと?

福岡県・大刀洗町立大刀洗中学校 3年 平田 美咲子

中学3年の夏から、私は「受験」について真剣に考えるようになりました。義務教育が終わり、これからは自分で自分の将来を決めなくてはなりません。希望も不安もたくさんあります。不安というのが、お金の問題でした。

私の家はとても裕福とはいえない状態にあり、お金の余裕はありません。そうすると必然的に、私の進路はあまりお金のかからない公立高校へと決められてきました。嫌なわけではありませんが、自由に私立や専門学校を選択肢に入れられる友人をうらやましく思うことも、しばしばありました。

私立には、ファッションやエステなど、華やかなコースがあり、公立では学べないこともたくさんありました。誰でも一度はあこがれるのではないのでしょうか。「絶対、私立にいきたい」そう思う人もいます。実際に私も、「楽しそうだなあ」と思っていました。

そんな時、私立の体験入学の話がありました。私は興味のあるコースがあったので、体験入学に行ってみることにしました。電車とバスを利用して高校に行きました。授業は専門的な教材を使って行われていました。昼食は給食はでないで、友達と店で買いました。初めて見る高校の授業風景に、私はわくわくしていました。中学校にはない専門的な教材も初めて見るものばかりで、「私も将来はこうなりたい」と感じました。しかし、将来の希望ばかりを学んだわけではありませんでした。高校に行くためにはたくさんのお金がかかるという現実を身をもって知ったのです。交通費や授業料、昼食代と、たくさんのお金が必要になるとわかり、あらためて「私立にはいけない」と思いました。

「こうしたいのにお金がないからあきらめなければならない。」こうした現実、私だけではありません。世界を見てみると、もっと深刻な貧困で苦しんでいる国がたくさんあります。学校にも行けず、家計の助けのために働かなければいけない子供達もたくさんいます。その中には私より小さい子もいます。学校についてだけでなく、毎日の食事も満足に食べられない人達もいます。病気にかかっても病院に行けない。行っても医者がない、薬がない。そんな状況の国や村が世界

にはたくさんあります。

日本はとても恵まれていると思います。中学卒業まで義務教育により、無料で学校へ行けるし、親の働くお金だけで生活できているから、子供は働かなくてもいい。食事も毎日三食があたり前になっている。病気になれば病院に行けるし、最新の治療が受けられる。貧困で苦しんでいる国との差ははっきりしていると思います。お金のある・ないが、こんなに大きな問題になるのです。ではどうすれば、このような問題を解決できるのでしょうか。どうすれば、お金による格差をなくすことができるのでしょうか。

世界には、この問題を解決しようとしている人がたくさんいます。ボランティア活動や資金を送る人など、たくさんの方が助け合おうとしています。私も、できることをしたいと思います。お金がない不自由さを、ほんの少しですが、私も体験したからです。格差は誰のせいで生まれたのかはわかりません。誰が悪いというわけでもないと思います。しかし、生まれた場所でこんなにも差があることを、「しょうがない」だけで終わらせないように、世界中で協力しないといけません。

私は「どうせ私立にはいけない」などと、悲観したくないです。私立にはいけなくても最大限の努力をしたいと思うし、公立でやれることをやれるだけしたいです。その結果、将来がどうなっても、「あの時、私立にいていれば」、また、高校のことだけでなく、過去を振り返って後悔はしたくありません。

お金がないからといって、すべてをあきらめるのではなく、お金のない中で自分がどう生きていくか。また、自分と同じような悩みを持った、^{ほか}他の人々とどう助け合うか。答えはまだわかりませんが、けして悪い結果ばかりではないと思います。お金がなくても、自分の成長や助け合いがある。「お金がない」ということは不幸ばかりではないとわかりました。まずは受験をのりきれるよう、頑張りたいです。

